

オウム真理教

教団の現状

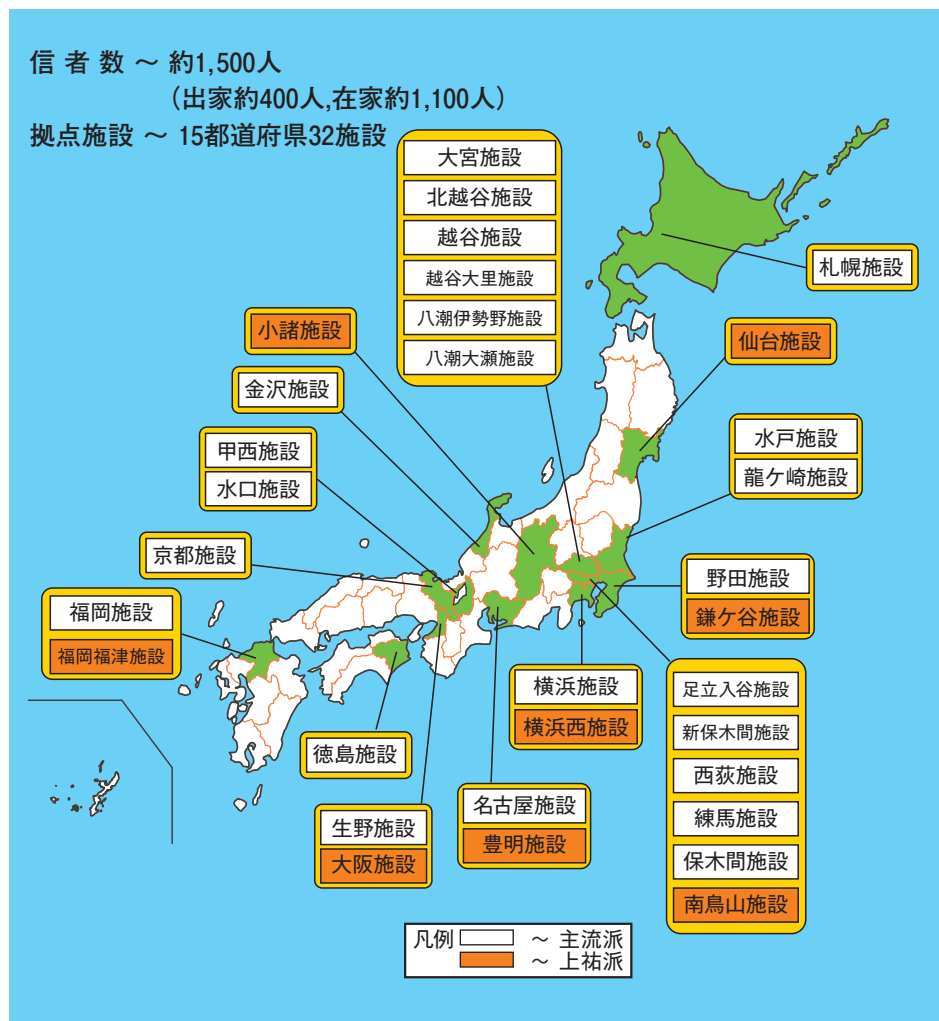
オウム真理教は、平成19年5月、麻原彰晃こと松本智津夫への絶対的帰依を強調する**主流派**（「Aleph (アレフ)」）と松本からの脱却を装う**上祐派**（「ひかりの輪」）とに内部分裂しました。現在、教団は15都道府県に**32か所の拠点施設**を有し、両派の信者数は、その活動状況等から合計で**約1,500人**とみられます。

主流派は、依然として松本を「尊師」と尊称し、同人の誕生を祝う「生誕祭」等を開催しているほか、拠点施設において、松本の肖像写真を祭壇に飾るなど、**松本への絶対的帰依を強調する原点回帰路線**を強めています。

一方、上祐派は、同派のウェブサイトにも旧教団時代の反省・総括の概要を掲載したり、各種メディアを通じて「松本からの脱却」を強調するなどして、松本の影響力がないかのように装って活動しています。

今後、主流派は、松本への絶対的帰依をより強める一方、上祐派は、同派のイメージアップを通じて、**無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律に基づく観察処分の適用回避に全力**を挙げるものとみられます。

なお、教団に対する観察処分は、24年1月末に期限を迎えることから、23年11月28日、公安調査庁長官は、警察庁長官の意見を聴いた上で、公安審査委員会に対して、同処分の期間を更新する請求を行いました。その後、24年1月23日、公安審査委員会は、同処分の期間を3年間（27年1月末まで）更新する決定を行いました。



組織拡大に向けた動向

主流派が22年中に東京都足立区内に確保した同派最大規模となる拠点施設(足立入谷施設)は、23年2月から出家信者が住民登録を開始し、居住者が教団施設最多の約50人となるなど、今後、同派の中心的な活動拠点になるものとみられます。

また、同派は、教団名を伏せた「ヨーガ・サークル」や街頭での「占い等」を手段とした勧誘活動を通じて信者を獲得しています。

一方、上祐派は、各拠点施設で開催している「上祐代表説法会」や、各地の神社仏閣等を訪問する「聖地修行」等の行事について、ウェブサイトを通じて在家信者に限らず一般人の参加も呼び掛け、信者獲得を図っています。



主流派最大規模となる拠点施設(足立入谷施設)

オウム真理教特別手配被疑者の捜査

教団が松本の指示の下に実行した地下鉄サリン事件から、17年近くが経過する中、23年12月31日、警察庁指定特別手配被疑者の一人である平田信ひらた まことが警視庁丸の内警察署に出頭したため、24年1月1日、同人を逮捕監禁致死罪(公証役場事務長逮捕監禁致死事件)で逮捕しました。また、1月10日、教団元出家信者の女が、平田信をかくまっていたとして警視庁大崎警察署に自首したため、同日、犯人蔵匿罪で逮捕しました。さらに、平田信については、1月31日、爆発物取締罰則違反及び火炎びんの使用等の処罰に関する法律違反で再逮捕しました。

警察は、依然として逃走中である高橋克也たかはしかつや及び菊地直子きくち なおこの発見検挙を、引き続き全国警察を挙げて取り組むべき最優先課題の一つとし、広く国民からの協力を得ながら、継続して捜査を推進しています。

なお、2月2日から、地下鉄サリン事件等の捜査特別報奨金の上限額が300万円から800万円に引き上げられたため、2人の検挙等に結び付く有力な捜査情報の提供者に、従来の私的報奨金200万円と合わせ、最高1,000万円が支払われることになりました。



警察庁指定特別手配被疑者(年齢は平成23年12月31日現在)